

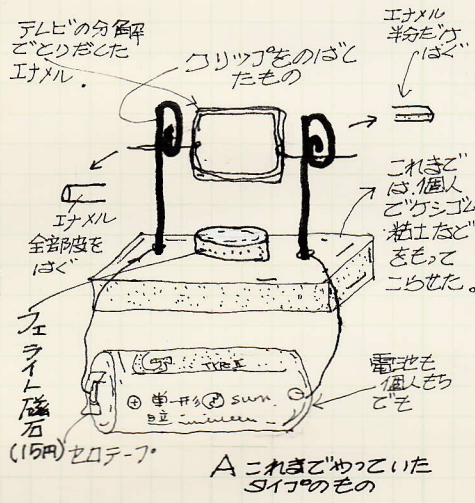
# 南未開業

## もっと簡単になった クリップモーター

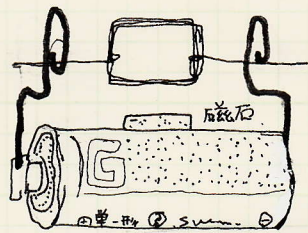
中学3年の最後の1分野の授業として、「電流と磁界」をやった。卒業記念製作のついでで、全員にクリップモーターを、ひとり、ひとつずつつくらせた。原理の説明も含めて、8クラス(323名)どのクラスも、2時間をおけてやった。

2時間おけると、8~9割の子どもがモーターがまわり出す。まわり出すと、たいへんなさわぎである。名札をもって、30秒以上、まわったものをチェックする。「あ、まわった。まわった」「先生、見とってんか」「おんや、こんなものでまわるんか」「……」はじめは、半信半疑だった子どもも含めて、ギャー、ギャーとやる。はやくできた子どもは、言わなくても、友だちの手伝ったり、新しい工夫をしたりしだす。

時間内にまわりなかつたものは、授業後やりとりして、とまかく、全員がまわった。その中で、2組の中村君が、おもしろいことをやりだした。(B)のようにして、台も、エナメル線のコードも使わないのである。台は、若しゴム、及び粘土をもってこらせることにしていた。中村君は、それを忘れたのである。これは、またたく間に子どもたちにながった。簡単で、失敗が少ないのである。こんなことに、どうして、今まで気づけなかつたのだろう。またしても、子ども、すごさに学んだ実験である。



台なしのクリップモーター



B、直接、クリップを電池につける。磁石を電池につける。中村君のやりだしたサイト。  
 (\* この他にいろいろあり、工夫した。おもしろいモーターつくりましたヨ。)